

国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙, 目次, まえがき, 奥付, その他

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | https://repository.ninjal.ac.jp/records/905 |

琉球方言から考える言語多様性と文化多様性の危機 狩俣繁久

「与論の言葉で話そう」-バイリンガル島を目指して- 菊 秀史

消えてゆく小さな島のことば Thomas Pellard (トマ・ペラルール)

辺境から発信する言語学 -シベリアのコリャーク語は今 呉人 恵

文化庁委託事業

『危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究』中間報告 木部暢子

パネルディスカッション

「日本の方言の多様性を守るために」 狩俣繁久/菊 秀史/Thomas Pellard /呉人 恵/木部暢子(司会)

国立国語研究所 第3回 国際学術フォーラム

日本の方言の 多様性を守るために



まえがき

影山 太郎

(国立国語研究所長)

NINJALフォーラムシリーズの刊行にあたって

〈大学共同利用機関法人〉人間文化研究機構に加わってから二年目に入った国立国語研究所は、日本語および日本語教育の研究拠点として、国内外の研究者と多彩な共同研究プロジェクトを全国的・国際的レベルで展開し、研究成果を様々なタイプの催しや刊行物を通して幅広く発信しています。なかでも、「NINJALフォーラム」と称する一般向けの公開講演会は、外部の研究者も交えてコトバに関する様々な問題を論じる場を提供し、その内容は「NINJALフォーラムシリーズ」として冊子体とオンラインの電子媒体でお伝えしていきます。本誌は、そのフォーラムシリーズの創刊

国立国語研究所
第3回
国際学術フォーラム

「日本の方言の 多様性を守るために」

目次

◇まえがき

影山 太郎

◇はじめに

◇講演

狩俣 繁久 「琉球方言から考える言語多様性と文化多様性の危機」

菊 秀史 「与論の言葉で話そう——バイリンガル島を目指して——」

トマ・ペラール 「消えてゆく小さな島のことば」

呉 人 恵 「辺境から発信する言語学——シベリアのコリヤーク語は今——」

木部 暢子 「文化庁委託事業『危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究』中間報告」

◇パネル・ディスカッション

コーディネイター…木部 暢子

狩俣 繁久／菊 秀史／トマ・ペラール／呉 人 恵



かげやま・たろう

号です。

NINJAL「ニンジャル」という愛称は、国立国語研究所の英語名 National Institute for Japanese Language and Linguistics を略したもので、直訳すると「日本語および日本語言語学のための国立の研究所」となります。この英語名に端的に示されるように、国立国語研究所は日本語という言語を、言語学を軸とする学際的観点から多面的・包括的に研究し、豊かな社会作りに直接的・間接的に寄与する成果を提供することを目的としています。

国立国語研究所が大切にしたいのは「コトバの多様性」という概念です。現在、地球上には約六千の言語が話されていると言われています。それらは、一方では、他の動物のコミュニケーションには見られない人間言語固有の普遍的特性を共有すると同時に、他方では、それぞれが用いられる地域・社会・文化に応じた独自の個性を発達させています。日本語の内部においても同様に、北は北海道方言から南は琉球諸方言まで多数の方言がそれぞれ特色ある言語文化の花を咲かせています。そのように多様・多彩な日本語の姿を包括的に解明するためには、それを分析するための手法においても日本語学、言語学、心理学、自然言語処理、教育学などを含む多角的なアプローチが必要となります。「多様性」の反対語は「画一性」ですが、言語というものは、あまりにも豊かで色とりどりの性質を持つているため、画一的な視点で統一することは到底不可能です。言語は、それを用いる人間そのものであり、人間はひとりひとりが多様で個性ある存在ですから、日本語の研究においても「多様性」の尊重がキーワードになるのです。

創刊号のテーマ「日本の方言の多様性を守るために」は、まさにこの理念に叶うもので、琉球語を中心に、方言あるいは言語が消滅してしまうというのがどういふことなのか、それが私たちの文化や生活にどのような影響を与えるのか、といったテーマに関して、日本語学・言語学の専門家だけでなく地元で方言の保存・復興活動をしている市民の立場も含めて様々な角度から検討を加えています。当日のフォーラムに参加された聴衆からも、多数のご質問・ご意見と共に、非常に有意義だったという感想をいただきました。今後、「NINJALフォーラム」を更に充実させていきたいと思っておりますので、みなさまのご理解とご支援をよろしくお願い致します。



はじめに

グローバル化が進む中、世界中の少数言語が消滅の危機に瀕しています。日本の方言も例外ではありません。もし、ことばの地域差がなくなってしまうたら、私たちの生活は、さぞかし味気ないものになってしまうことでしょう。このフォーラムでは、4人のパネリストがそれぞれ、奄美・沖縄方言を長年、調査・研究している立場から、子どもたちに方言を伝えるための活動を行っている立場から、奄美・沖縄方言を研究している外国人の立場から、外国で少数民族の言語の調査・研究を行っている立場から、それぞれの言語・方言が置かれている現状を報告し、ことばの多様性を守ることの重要性について、みんなで考えてみたいと思います。

講演から

与論の方言で「ありがとうございます」、「ありがとうございました」を「トートガナシ」と言い、「尊加那志」と書きます。「加那志」は当て字ですが、「敬い」の意味を含む美称です。たとえば、「子」のことは「クワー」なので、「お子さま」は「クワーガナシ」、「家」のことは「ヤー」なので、「ご邸宅」は「ヤーガナシ」です。

(菊 秀史)



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立国語研究所

〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2
TEL. 042-540-4300 / FAX. 042-540-4333



国立国語研究所 第3回国際学術フォーラム

日本の方言の多様性を守るために

2011(平成23)年3月31日

発行：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立国語研究所

〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2

TEL：042-540-4300 FAX：042-540-4334

<http://www.ninjal.ac.jp/>

編集

デザイン 株式会社 弘文社

印刷



国立国語研究所